

教育科学技術部告示第 2011 361 号 [別冊 14]

英語科教育課程

教育科学技術部

翻訳：小泉 仁

2012.12.12.

2014.09.09. 改訂

目 次

英語科 教育課程

[共通教育課程]

1. 英語	1
-------------	---

[選択教育課程]

<基本科目>

1. 基礎英語	128
---------------	-----

<一般科目>

1. 実用英語 I	153
2. 実用英語会話	180
3. 実用英語読解と作文	201
4. 実用英語 II	221
5. 英語 I	248
6. 英語会話	275
7. 英語読解と作文	295
8. 英語 II	315

<深化科目>

1. 深化英語	342
2. 深化英語会話 I	370

3. 深化英語會話 II	389
4. 深化英語讀解 I	409
5. 深化英語讀解 II	429
6. 深化英語作文	448

1. 英語

1. 追求する人間像

我が国の教育は弘益人間^{*1}の理念の下、すべての国民に対し人格を育成し、自主的生活能力と民主市民として必要な資質を整え、人間らしい人生を営むようにして、民主国家の発展と人類共栄の理想を実現するのに尽くすようにすることを目的とする。

このような教育理念に基づき、この教育課程が追求する人間像は次のとおりである。

- ア. 全人的成長の基盤の上に個性の発達と進路を切り開く人
- イ. 基礎能力の土台の上に新しい発想と挑戦で創意性を発揮する人
- ウ. 文化的素養と多元的価値に対する理解を土台に品格ある人生を営む人
- エ. 世界とコミュニケーションする市民として配慮と共有の精神で共同体の発展に参加する人

2. 初・中学校 教育目標

ア. 初等学校教育目標

小学校の教育は児童の学習と日常生活に必要な基礎能力を養い、基本的生活習慣を形成することに重点を置く。

- ア. 豊富な学習経験を通じてからだと心が元気でバランスが取れているように育成するようにして、多様なことの世界に対する基礎的な理解をする。
- イ. 学習と生活で問題を認識して解決する基礎能力を育てて、これを新しく経験できる想像力を育成する。
- ウ. 自分の文化を理解し、文化を享有する正しい態度を育成する。
- エ. 自身の経験と考えを多様に表現して他人と共感して協同する態度を育成する。

¹ こうえきじんかん：広く人間世界に益を与えること、朝鮮の始祖とされる檀君の建国理念

イ. 中学校教育目標

中学校の教育は小学校教育の成果を土台に、生徒の学習と日常生活に必要な基本能力を養い、多元的な価値を受け入れて尊重する民主市民の資質育成に重点を置く。

- ア. 心身の健康で調和のとれた発達を追求し、多様な分野の経験と知識を結実させ、積極的に進路を探索する。
- イ. 学習と生活に必要な基礎能力と問題解決力を土台に創造的な思考力を育成する。
- ウ. 身の回りの世界に対する経験を土台に、多様な文化と価値に対する理解を広げる。
- エ. 多様なコミュニケーション能力を育てて民主市民としての資質と態度を整える。

3. 目標

今日、世界は地球村と呼ばれるほど国家間の交流が頻繁で、互いに密接に連結されている。また、変化の速い知識情報化社会にあつては、個人生活から政治、経済、社会、文化全般に至るまでさまざまな分野の多様な知識と情報を理解するだけでなく、知識を生産して伝達する能力まで要求されている。

このような環境で、英語は国際的に最も広く使われる言語として、互いに異なる文化的背景を持ち他言語を使う人々を理解し、彼らとのコミュニケーションと連携を可能にする重要な役割を果たす。したがって、未来を生きていかなければならない生徒たちにとって英語でコミュニケーションする能力は学校で育てなければならない核心的な能力の一つとなる。すなわち、世界化と知識情報化時代に先導的役割を遂行するためには英語を理解して駆使する能力は必須である。また幅広い教養および文化生活を営むなど個人生活の質を高めて、個人の力量を強化するためにも英語コミュニケーション能力を整えることが必要である。

小学校英語は日常生活で使う基礎的な英語を理解して表現する能力を育成する教科として音声言語を中心にコミュニケーション能力の土台になる言語技能教育に重点を置く。文字言語教育は平易で簡単な内容の文を読み書くことができる内容としながらも、音声言語と連携して内容を構成する。

小学校の英語教育は小学校児童の特性を考慮しなければならない。小学校児童は好奇心が強く、実生活で体験する感覚と経験が思考と行動に深く作用する。したがって小学校英語教科での教授・学習活動は児童たちの実生活と密接に関連した感覚および遊びの活動、チャンツや歌などを主にして、体験的学習を通じて発見の楽しみを経験できるようにする

ことが効果的である。また、小学校児童は、吸収は速いが集中時間が短いので、多様な教授・学習方法を適用し、マルチメディアや情報通信技術（ICT）など興味を引く教育媒体を通じて創意的に学習することができるようにする。

中学校英語は小学校で形成された英語学習に対する興味と関心を持続させ、英語でコミュニケーションできる基本的な能力を育成するにしながら、多様で創意的であり体系的な教授・学習活動が成り立つようにする。

中学校での英語教育は生徒たちの基本的な日常英語に対する理解とともに、外国語文化を理解して、高等学校の英語科選択教科目を履修する基盤となる英語能力を育成することに重点を置く。

英語科は英語コミュニケーション能力を育成することが重要な目標だが、人間性教育と創意性教育も重要であるため、英語教育を通じて人格を育成し、市民意識、共同体意識を向上させ、人に配慮できる模範的な市民意識と創造的な思考力を養うことができるようにする。また、外国文化を正しく理解し国際人としての資質と素養を育成するにようにする。

英語科の目標は次のとおりとする。

日常生活に必要な英語を理解し使用できる基本的なコミュニケーション能力を育成する。また、外国文化を正しく理解し私たちの文化を発展させ外国に紹介できる土台を準備する。このため、第一に、生涯学習において英語への持続的な興味と自信を持たせるようにする。第二に、日常生活と一般的な話題に関してコミュニケーションできる基本能力を育成する。第三に、外国の多様な情報を理解し活用できる能力を育成する。第四に、外国文化を理解することにより自己の文化を改めて認識し、正しくバランスが取れた態度と姿勢を育成する。

小学校英語は英語に対する興味と関心を持ち、日常生活で使われる基礎的な英語を理解して表現する能力を育成することを目標にする。

- ア．英語に対する興味と基礎的な英語使用に対する自信を持つ。
- イ．日常生活において英語での基礎的なコミュニケーションができる能力を育成する。
- ウ．英語学習を通じて他の国の慣習や文化を理解する。

中学校英語は、小学校で習った英語を土台として、身近な一般的主題に関して基本的な英語を理解し表現できる能力を育成することを目標にする。それにとともなう細部目標は次のとおりとする。

- ア．英語に対する興味を維持して日常的な英語使用に自信を育成する。

イ. 身近な一般的主題に関して、英語で基本的なコミュニケーションができる能力を育成する。

ウ. 外国の文化と情報を理解して私たちの文化を英語で紹介できる基本能力を育成する。

4. 内容の領域と基準

ア. 内容体系

(1) 言語技能

- ・聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの言語四技能を徐々に育成することができるようにする。また、言語技能を統合的に使用できる能力を育てるようにする。

言語区分 言語技能	音声言語	文字言語
理解技能	聞くこと	読むこと
表現技能	話すこと	使うこと

(2) コミュニケーション活動

- ・コミュニケーション活動は音声言語活動と文字言語活動で成り立つ。

コミュニケーション活動	内 容
音声言語活動	音声言語活動は【別表2】の‘コミュニケーション機能と例文’に示された項目を主に使いながら、【別表4】の‘コミュニケーションに必要な言語形式’に提示された項目も参考
文字言語活動	文字言語活動は【別表4】の‘コミュニケーションに必要な言語形式’に示された項目を主に使いながら、【別表2】の‘コミュニケーション機能と例文’に提示された項目も参考

(3) 言語材料

- ・自然なコミュニケーション活動のため以下の素材、言語、語彙、一文の長さ(小学校)を参考にする。

領域	内容
素材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【別表 1】 の’ 素材’ から適切なものを選択し使用 ・ 児童の興味、必要、認知的水準などを考慮して学習動機を高めるような内容 ・ コミュニケーション機能を理解して活用するのに役に立つ内容 ・ 主題、状況、課題などを考慮した内容 ・ インタラクションに適した内容 ・ 英語圏及び非英語圏の文化理解に適した内容 ・ 創意性及び論理的、批判的思考力の涵養に役に立つ内容
言語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然な言語習得と実践的なコミュニケーション活動に役に立つ言語 ・ 日常生活でたくさん使われる言語 ・ 生徒たちの認知発達段階と水準を考慮した言語 ・ 音と文字の関係、音と意味の識別、発語をつなげること、発語の速度にともなう音韻変化、状況によった音韻変化および自然な発話などの学習に役に立つ言語
語彙	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年群で使用できる新語数は次のとおり。 小学3～4学年群：240単語内外 小学5～6学年群：260単語内外(累計:500単語内外) 中学1～3学年群：750単語内外(総計:1,250単語内外) ・ 【別表 3】 の’ 基本語彙関連指針と語彙目録’ に提示された内容を参照
一文の長さ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学3～4学年群：7単語以内 ・ 小学5～6学年群：9単語以内 <p>(ただし and, but, or, because を使う場合は例外とする)</p>

イ. 学年群別到達基準

(1) 小学校3～4学年群

- (ア) 英語の簡単な音声を識別し、やさしく簡単な発話、対話、チャンツ、歌、ゲームなどを理解し、単純な課題を遂行する。
- (イ) 英語の簡単な音声を聞き話し、日常生活で熟知した対象を単語と文で話し、学習活動に参加し、簡単に聞いて答える。
- (ウ) アルファベットを識別し、音と綴りの関係を理解し、やさしく簡単な単語や文のあとについて読み、簡単な単語と語句の意味を理解する。
- (エ) アルファベット印刷体の大文字・小文字を書き、単語と語句を倣って書き、見て書く。

(2) 小学校5～6学年群

- (ア) 簡単な発話や対話を聞いて内容を理解し、電話対話を理解し、課題を遂行する。
- (イ) 簡単な発話や対話を聞いて内容に合うように話し、内容に関し聞いて答え、電話での対話で状況に合うよう指示したり要請する。
- (ウ) やさしくて簡単な語句、文章、文を、音読し意味を理解して、やさしくて短い文の主要内容を理解する。
- (エ) アルファベットと句読点を正しく書き、やさしく簡単な単語と語句を書き、自身や家族などに関する例文を参考にして短くて簡単な文を書く。

(3) 中学校1～3学年群

- (ア) 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や対話を聞き、主な内容や流れを把握する。
- (イ) 日常生活や熟知した一般的主題に関して要点や自身の意見を述べたり身のまわりの対象を描写・説明する。
- (ウ) 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読み要点や流れを把握する。
- (エ) 日常生活や熟知した一般的主題に関して、要点や自身の意見を文として書き、身のまわりの対象を描写・説明する。

ウ. 領域および学習内容成就基準

(1) 小学校3～4学年群

(ア) 聞くこと

① 音を識別する。

①-1. アルファベットと単語の声を聞いて識別する。

①-2. 英語の声と強勢、リズム、抑揚を聞いて識別する。

- ② 単語や対話内容を理解する。
 - ②-1. 周辺の熟知した単語を聞いて意味を理解する。
 - ②-2. 日常生活に使われる容易で慣れ親しんだ表現を聞いて理解する。
 - ②-3. 日常生活に関する簡単な対話を聞いて理解する。
 - ②-4. 周辺の事物と人に関する容易で簡単な話を聞いて理解する。
 - ②-5. 過ぎ去ったことに関する簡単な話を聞いて理解する。
- ③ チャンツ、歌、ゲームの中心表現を理解する。
 - ③-1. 平易で短いチャンツや歌を聞いて中心となる表現を理解する。
 - ③-2. 平易で短いゲームや遊びを通じて中心となる表現を理解する。
- ④ 課題を遂行する。
 - ④-1. 容易で簡単な指示、命令を聞いて行動する。
 - ④-2. 容易で簡単な話を聞いて単純な課題を遂行する。

(イ) 話すこと

- ① あとについて言う。
 - ①-1. アルファベットと単語の音声を聞き、あとについて言う。
 - ①-2. 英語の強勢、リズム、抑揚に合うよう、あとについて言う。
- ② 単語や文章を言う。
 - ②-1. 実物や図を見て単語や一文で話す。
 - ②-2. 周辺の事物と人に関し一、二文で話す。
 - ②-3. 一、二文で指示したり命令する。
 - ②-4. 容易で熟知した日常表現を用いる。
- ③ 話したり聞いたことに答える。
 - ③-1. 一、二文で自己紹介をする。
 - ③-2. 日常生活について、容易で簡単な表現で聞いたことに答える。
 - ③-3. 過ぎ去ったことについて、簡潔に話す。
- ④ チャンツや歌、ゲームをする。
 - ④-1. 容易で簡単なゲームや遊びに参加して話す。
 - ④-2. 容易で簡単なチャンツや歌を強勢、リズム、抑揚に合わせて歌う。

(ウ) 読むこと

- ① アルファベットを読む。
 - ①-1. アルファベット印刷体の大文字と小文字を、識別して読む。
- ② 音と綴りの関係を理解して単語を読む。
 - ②-1. 音と綴りの関係を理解する。

②-2. 音と綴りの関係を基に容易な単語を読む。

③ 語句や文章を読む。

③-1. 容易で簡単な単語や語句のあとについて読む。

③-2. 聞いたのと一致する単語や語句を探して読む。

③-3. 容易で簡単な文章について読む。

③-4. 容易で簡単な単語や語句を音読する。

④ 単語や語句の意味を理解する。

④-1. 図、実物、動作等を通して容易で簡単な単語を読んで意味を理解する。

④-2. 容易で簡単な単語や語句を読んで意味を理解する。

(エ) 書くこと

① アルファベットを書く。

①-1. アルファベット印刷体の大文字と小文字を書く。

② 単語や語句を書く。

②-1. 口頭で言い慣れた単語をなぞって書く。

②-2. 短くて容易な単語や語句をまねて書き、見て書く。

②-3. 図、実物、動作などを現わす単語や語句を完成して書く。

(2) 小学校5～6学年群

(ア) 聞くこと

① 中心的な内容を理解する。

①-1. 実物や図に関する説明を聞いて理解する。

①-2. 今後起きることに関する簡単な話や対話を聞いて理解する。

①-3. 対象を比較する容易な話や対話を聞いて理解する。

①-4. 簡単な話や対話を聞いて意図や目的を理解する。

② 詳しい内容を理解する。

②-1. 図や図表に関する容易で簡単な話や対話を聞いて詳しい内容を理解する。

②-2. 日常生活に関する簡単な話や対話を聞いて詳しい内容を理解する。

③ 電話対話を理解する。

③-1. 電話対話に必要な基礎的な表現を聞いて理解する。

③-2. 簡単な電話対話を聞いて理解する。

④ 課題を遂行する。

④-1. 簡単な描写や説明を聞いて課題を遂行する。

④-2. 日常生活に関する簡単な話や対話を聞いて課題を遂行する。

(イ) 話すこと

- ① 中心的な内容を話す。
 - ①-1. 周辺の熟知した対象に関し簡単に話す。
 - ①-2. 単純な図や状況を見て簡単に話す。
 - ①-3. 日常生活に関する簡単な話や対話を聞いて中心的な内容を聞いて答える。
- ② 詳しい内容を聞いて答える。
 - ②-1. 日常生活に関し簡単に理由を聞いて答える。
 - ②-2. 今後起きることに関し簡単に聞いて答える。
 - ②-3. 日常生活に関する簡単な話や対話を聞いて詳しい内容を聞いて答える。
- ③ 電話対話をする。
 - ③-1. 電話対話に必要な基礎的な表現をする。
 - ③-2. 簡単な電話の対話をする。
- ④ 指示したり要請する。
 - ④-1. 2～3個の連続した文で指示したり命令する。
 - ④-2. 容易で簡単な表現を使って状況に応じるように要請する。

(ウ) 読むこと

- ① 声に出して読む。
 - ①-1. 容易で簡単な文を強勢、リズム、抑揚に合わせて声に出して読む。
 - ①-2. 日常生活に関する短くて容易な文を声に出して読む。
- ② 文を読んで理解する。
 - ②-1. 身のまわりの熟知した対象の名前や表示板などを読んで理解する。
 - ②-2. 容易で簡単な文章を読んで理解する。
- ③ 文の内容を理解する。
 - ③-1. 図や図表が含まれた容易で簡単な文を読んで理解する。
 - ③-2. 日常生活に関する短くて容易な文を読んで理解する。
 - ③-3. 個人生活を紹介する短くて容易な文を読んで理解する。
 - ③-4. 容易な話を読んであらすじを理解する。

(エ) 書くこと

- ① 綴字法どおり正しく書く。
 - ①-1. 文章中で印刷体の大文字小文字を正しく書く。
 - ①-2. 文章中で句読点を正しく書く。
- ② 単語や語句を書く。
 - ②-1. 音と綴りの関係に基づき容易な単語を聞いて書く。

- ②-2. 実物、図、図表を見て容易で簡単な単語や語句を書く。
- ②-3. 与えられた単語や語句を入れて簡単な文章を完成する。
- ③ 文章や短い文を書く。
 - ③-1. 実物、図、図表を見て一、二文で書く。
 - ③-2. 例示文を参考にして簡単な招待、感謝、祝いなどの短い文を書く。
 - ③-3. 自身や家族などに関し短くて簡単に書く。

(3) 中学校1～3学年群

(ア) 聞くこと

- ① 中心的な内容を把握する。
 - ①-1. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や対話を聞きあらすじを把握する。
 - ①-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や対話を聞いて主題および要旨を把握する。
 - ①-3. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や対話を聞いて意図や目的を把握する。
- ② 詳しい内容を把握する。
 - ②-1. 図や図表に関する短い話や対話を聞いて詳しい内容を把握する。
 - ②-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や対話を聞いて詳しい内容を把握する。
- ③ 流れを把握する。
 - ③-1. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や対話を聞いて話者の心情や態度を把握する。
 - ③-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や対話を聞いてことや事件の前後関係を把握する。
 - ③-3. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や対話を聞いてものごとや事件の原因と結果を把握する。
- ④ 課題を遂行する。
 - ④-1. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や対話を聞いて課題を遂行する。

(イ) 話すこと

- ① 中心的な内容を話す。
 - ①-1. 日常生活や熟知した一般的主題に関して主な内容を聞いて答える。
 - ①-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や文の主題および要旨を話す。
- ② 詳しい内容を話す。
 - ②-1. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や文の詳しい内容を聞いて答える。

- ②-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する互いに違う立場を現わす短文を読んで差異点をいう。
- ③ 対象や資料を描写したり説明する。
 - ③-1. 身の回りの熟知した対象を簡単に描写する。
 - ③-2. 身の回りの熟知した対象に対し好きや嫌いの理由を聞いて答える。
 - ③-3. 簡単な日常用品の使用法などを順序に合うように説明する。
 - ③-4. 日常生活や熟知した一般的主題に関する実物、図、図表などの資料を簡単に説明する。
 - ③-5. 日常生活に関連した簡単な問題を解決するために手続きや方法を聞いて答える。
- ④ 流れを話す。
 - ④-1. 日常生活に関する短い文を読んで続く内容を推測して話す。
 - ④-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関することや事件の原因と結果を聞いて答える。
- ⑤ 経験や意見を言う。
 - ⑤-1. 日常生活に関する経験や計画に対して簡単に話す。
 - ⑤-2. 日常生活に関する感じや意見を聞いて答える。
 - ⑤-3. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文や対話文を活用して簡単なロールプレイを遂行する。

(ウ) 読むこと

- ① 声を出して読んで意味を把握する。
 - ①-1. 日常生活や熟知した一般的主題に関する短い文を声を出して読んで意味を把握する。
 - ①-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する短い文を聞いてよって読みながら意味を把握する。
- ② 中心内容を把握する。
 - ②-1. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んであらすじを把握する。
 - ②-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んで主題および要旨を把握する。
 - ②-3. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んで書いた人の意図や目的を把握する。
- ③ 詳しい内容を把握する。
 - ③-1. 図や図表が含まれた短い文を読んで詳しい内容を把握する。
 - ③-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んで詳しい内容を把握する。
- ④ 流れを把握する。
 - ④-1. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んで単語や語句の意味を文脈で

推測する。

- ④-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んでことや事件の前後関係を把握する。
- ④-3. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んで文の連結関係を把握する。
- ④-4. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んでことや事件のウォン因果結果を把握する。
- ④-5. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んで続く内容を推測する。

(エ) 書くこと

- ① 文を完成する。
 - ①-1. 与えられた単語や語句を活用して文章を完成する。
 - ①-2. 周辺の実物、図、写真、図表などを見て文章を完成する。
 - ①-3. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んで結末を完成する。
- ② 中心内容を書く。
 - ②-1. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や文の主な内容を書く。
 - ②-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んで要旨を使う。
- ③ 細部内容を書く。
 - ③-1. 日常生活や熟知した一般的主題に関する話や文の細部内容を書く。
- ④ 描写したり説明する文を書く。
 - ④-1. 周辺の人、対象などを描写する簡単な文章や文を書く。
 - ④-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する図、写真、図表などを説明する簡単な文章や文を書く。
- ⑤ 経験や意見を書く。
 - ⑤-1. 日常生活に関する経験や計画に対して簡単に使う。
 - ⑤-2. 日常生活や熟知した一般的主題に関する文を読んで感じや意見を簡単に使う。
- ⑥ 実用文を書く。
 - ⑥-1. 招待、感謝、祝い、慰労などの短い文を書く。
 - ⑥-2. 簡単な日記、手紙、広告文、案内文を書く。

5. 教授・学習方法

5-1. 初等学校

ア. 教授・学習計画

(1) 教授・学習計画の方向

- (ア) 教育課程を基盤として学習目標と内容に合うよう教授・学習計画を樹立する。
- (イ) 英語学習に対する児童たちの動機を誘発し興味と自信を育てられるように教授・学習計画を樹立する。
- (ウ) 児童たちの英語使用能力および認知的、情緒的特性にあつての個人差を共に考慮した教授・学習計画を樹立する。
- (エ) 児童中心の課題および体験学習を通じて自分の主導的学習が成り立つように教授・学習計画を樹立する。
- (オ) コミュニケーション能力伸張、創意性啓発および人格教育が共に成り立つように教授・学習計画を樹立する。

(2) 教授・学習計画の段階

- (ア) 教育課程に提示された教育目標と成就基準を検討して、授業時間に学習する具体的な学習目標を設定する。
- (イ) 学習内容(言語的要素、コミュニケーション的要素、文化的要素など)を分析して児童特性に合う教材を再構成することができるように教授・学習計画を樹立する。
- (ウ) 学習者要因と学習環境要因(児童数, 教室の大きさ、教室構造、教授・学習機器、教授・学習資料など)を把握する。
- (エ) 出発点の行動、学習活動遂行過程、学習目標達成の有無などを診断したり点検するための評価方法を定める。
- (オ) 教授・学習を効果的で一貫性を持って遂行するために教授・学習過程案を作成する。
教授・学習過程案は次の事項を含むことができる。
 - ① 教授・学習の対象と時期
 - ② 教授・学習の目標
 - ③ 教授・学習内容： 言語技能、コミュニケーション活動、言語形式、素材(必要に応じて文化も含む)
 - ④ 教授・学習資料： 教科用図書、水準別教授・学習資料、視聴覚資料など
 - ⑤ 教授・学習活動および手続き： 教授・学習目標と学習内容に適合した具体的学習手続きおよび学習活動、活動別時間の配分
 - ⑥ 評価方法および指導上の留意点

(3) 教授・学習計画上の留意点

- (ア) 教授・学習に使われる言語と課題においては真正性ある言語と有意味な課題が選ばれるようにする。

- (イ) 学習動機の誘発方法、活動類型(個人、パートナー、集団、全体)、児童中心の授業活動、授業内容の確認活動などが含まれるようにする。
- (ウ) コミュニケーション能力の伸張、創意性の啓発および人格教育が共に成り立つよう留意する。
- (エ) 学習機器を授業に活用しようと思う時には学習の効率性が最大化されるようにする。

イ. 教授・学習方法

(1) 教授・学習方法選定の方向

- (ア) 学習目標と内容に適切な教授・学習方法を選定する。
- (イ) 児童たちの実際の言語使用能力を養成できる教授・学習方法を選定する。
- (ウ) 児童の英語使用能力、認知的・情緒的特性、学習類型および方略などを考慮して多様な児童中心の教授・学習方法を選定する。
- (エ) 単一言語技能についての教授・学習方法だけでなく二つ以上の言語技能を連携する教授・
学習方法を選定することによって実際的で統合的な英語使用能力を伸ばすようにする。
- (オ) 児童たちが協力して課題を解決する経験をたくさん持つように誘導し、他人に対する配慮と分かち合いの実践など人格教育を強化できる方法も考慮して選定する。
- (カ) 英語圏および非英語圏の多様な文化を理解できる教授・学習活動を準備²する。
- (キ) 教授・学習内容などの性格によっては、教授・学習方法の選定過程に児童たちを参加させて創意的な活動を導き出し、学習興味と学習動機誘発を企てる。
- (ク) 必要な場合、他教科と連携・活用できる教授・学習方法を選定する。

(2) 教授・学習方法

- (ア) 聞くこと
 - ① 英語音素を識別することができるように指導する。
 - ② 歌、チャンツなどを活用し、英語の強勢、リズム、抑揚などに自然に慣れるように指導する。
 - ③ 音素、単語、語句、抑揚などの構成要素を考慮して意味を把握するように指導する。
 - ④ 英語学習初期には聞いて行動で反応すること、聞いて指示のとおり課題を遂行すること、聞いて必要な情報を探ることなどの活動により、リスニングに集中するように指導する。
 - ⑤ 対話が起きる状況、前後関係、背景知識などを活用して意味を把握するように指導す

² 原文では「具案する」

る。

- ⑥ 効率的な聞く活動のために、聞く前の活動、聞きながらの活動、聞いた後の活動に分け、段階的な指導をすることができる。

(イ) 話すこと

- ① 英語音素を正しく発音できるように指導する。
- ② 歌、チャンツなど通して英語の強勢、リズム、抑揚を自然に実らせられるように指導する。
- ③ 聞いたとおりに言うこと、質問と応答などの活動により、聞くことと話すことの活動が自然に関連するように指導する。
- ④ 語のかたまり (**chunk**) などを活用して意味伝達能力を育てるように指導する。
- ⑤ ゲーム、役割遊びなどの活動により流暢さを育てるように指導する。
- ⑥ コミュニケーションに支障を与えない限り、教師がすぐに誤りを修正することを避け、できるだけ、児童自らが誤りを発見し修正することができるように指導する。

(ウ) 読むこと

- ① 英語学習環境および児童の読み取り水準を考慮して、聞くこと、話すことと関係づけて指導する。
- ② アルファベットを順に配列すること、アルファベットの大文字小文字との組み合わせを作ること、アルファベットの歌を歌うことなどの多様な活動により、アルファベットが自然に身につくように指導する。
- ③ 読み取り学習の初期段階には、音と綴りの関係を自然に身につけさせ、文字言語に慣れるように指導する。
- ④ 音声言語で身につけた簡単なじんだ語彙、しばしば使われる機能語などを **sight word** として身につけるように指導する。
- ⑤ 文字言語親近と熟知度が高まるにつれ多様な資料を活用して読み取りの楽しみを感じられるように指導する。
- ⑥ 効率的読み取り活動のために読む前の活動、読みながらの活動、読んだ後の活動に分けて段階的に指導することができる。

(エ) 書くこと

- ① 書くことは、聞くこと、話すこと、読むことと関係づけて指導する。
- ② 書き写すこと、報告を書くこと、聞いて書くことなどの多様な活動により、アルファベット活字体の大文字小文字を正しく使えるように指導する。
- ③ 初期には綴りおよび句読点などを指導し、次第に意味の伝達に重点を置いて指導する。
- ④ 多様な書く課題を活用して児童の書く能力を向上させ、興味と自信を増進するようにする。
- ⑤ 学習目標と児童水準を考慮して制限的な書く活動、誘導的な書く活動、自由に書く活

動に分けて段階別に指導する。

- (a) 制限的な書く活動には、アルファベットや単語、文章書き写すこと、発音と綴りの関係を活用してディクテーションをすること、例示文を読んで空欄に単語を補充して書くこと、図に合う様に与えられた単語を配列して文章を完成することなどがある。
 - (b) 誘導的な書く活動は、例文を読んで状況に合うように児童が文を完成する活動や、児童の水準に合う語彙などを提供して招待状や感謝状を書くことなどを行うことができる。
 - (c) 自由に書く活動は、児童たちの自由な文を書くことを誘導する活動で、意味を表現することに比重を置く、日記書きなどがある。
- ⑥ 効率的な書く活動のために、書く前の活動、書く途中の活動、書いた後の活動に分けて、段階的に指導することができる。

(オ) 語彙および言語形式

- ① 語彙はできるだけ実物、図、動作、マルチメディア資料など多様な資料を活用して意味を理解するように指導して、辞書などを利用して意味を探す方法も指導する。
- ② 言語形式はコミュニケーション活動の脈絡で実際に使われる機会を通じて自然に身につけていくように指導する。
- ③ 歌、チャンツ、ゲームなどの多様で興味深い活動により語彙と言語形式を自然に身につけさせるように指導する。

(カ) 文化

- ① 多様な文化に対する正しい認識と尊重する態度を育てるように指導する。
- ② 遊びと体験中心の文化学習活動により多様な文化に対して理解するように指導する。
- ③ 情報通信技術およびその他多様な教授・学習資料などを活用して、英語圏および非英語圏文化資料を児童自ら探索しながら、多様な文化を理解するように指導する。

(3) 教授・学習計画上の留意点

- (ア) 児童たちが学習目標に到達することができるように指導するものの、児童たちの能力や水準などを考慮して多様な学習の機会と方法を提供する。
- (イ) 教師中心の活動よりも、教師と児童、児童と児童間の相互作用が活発に起きるようにする。
- (ウ) 多様なグループ別協同・協力学習を通じ、児童たちが課題を遂行していきながら英語コミュニケーション活動に多く参加することができるようにする。
- (エ) 個別学習およびグループ学習を適切に活用して児童たちが自分の主導的学習態度と協力学習態度および分かち合いと配慮の共同体意識を育成できるように指導する。
- (オ) 学校条件により、英語指導教師間での協議を通じて学習内容を分析したのち、基本学

習、深化学習、補充学習などに必要な要素を抽出して指導することができる。

- (カ) 学校の実情に応じて水準別授業を運営することができる。
- (キ) 英語で進める英語授業を児童たちの言語能力水準に合うように徐々に拡大する。
- (ク) 小学校3、4学年ではチャンツ、歌、ゲーム、役割遊びなどを活用した容易でおもしろい教授・学習方法をたくさん適用し、小学校5、6学年ではより多様なコミュニケーション中心の教授・学習方法の比重を増やしていくようにする。
- (ケ) チャンツ、歌などを活用するときは、英語の強勢、リズム、抑揚などが自然に習得されるように留意する。
- (コ) ゲームおよび役割遊びなどの活動中心の授業では興味誘発と言語学習が同時に成り立つようにする。

ウ 教授・学習資料

(1) 教授・学習資料の開発方向

- (ア) 教授・学習活動の効率的実行に必要な資料を準備³する。
- (イ) 児童たちの学習動機誘発と興味維持を考慮した資料を準備する。
- (ウ) 児童たちの学習類型および戦略などを考慮した資料を準備する。
- (エ) 児童たちの英語使用能力および認知水準などを考慮した水準別資料を準備する。
- (オ) 人格教育のために健全な性格育成に役に立つ資料を構想・考案する。
- (カ) 課題中心のコミュニケーション活動と自分の主導的学習を促進できる資料を準備する。
- (キ) コミュニケーション能力伸張のために教授・学習の段階別に適合した教授・学習資料を準備する。
- (ク) 学級規模などにより効果的に使用できる資料を準備する。

(2) 教授・学習資料活用方法および活用上の留意点

- (ア) 準備された資料を教授・学習状況に合わせて効果的に活用する。
- (イ) 選ばれた資料を教授・学習の必要に応じて修正および補完する。
- (ウ) 水準別教授・学習活動を実施する場合、多様な教授・学習資料を活用するようにする。
- (エ) 教授・学習資料の性格などに応じて、児童が資料選定および開発過程に参加するようにすることによって学習動機を誘発して、学習参加度を促進する。
- (オ) 準備した同一資料を多様な学習活動に活用して活用度を高める。
- (カ) 教授・学習資料活用時学習活動の多様性と連携性を考慮して、資料に過度に依存しないようにする。

³ 原文では「具案する」

5-2. 中学校

ア. 教授・学習計画

(1) 教授・学習計画の方向

- (ア) 教育課程を基盤として学習目標と内容に合うように教授・学習計画を樹立する。
- (イ) 英語学習に対する生徒たちの動機を誘発して、興味と自信を維持できるように教授・学習計画を樹立する。
- (ウ) 生徒たちの英語使用能力および認知的、情緒的特性に合わせ、個人差も考慮した教授・学習計画を樹立する。
- (エ) 生徒中心の課題および体験学習を通じて自分の主導的学習が成り立つように教授・学習計画を樹立する。
- (オ) コミュニケーション能力の伸張、創意性の啓発および人間性教育が共に成り立つように教授・学習計画を樹立する。

(2) 教授・学習計画の段階

- (ア) 教育課程に提示された教育目標と成就基準を検討して、授業時間に学習する具体的な学習目標を設定する。
- (イ) 学習内容(言語的要素、コミュニケーション的要素、文化的要素など)を分析して生徒の特性に合うように教材を再構成することができるように教授・学習計画を樹立する。
- (ウ) 学習者要因と学習環境要因(生徒数, 教室の大きさ、教室構造、教授・学習機資材、教授・学習資料など)を把握する。
- (エ) 学習開始時の行動、学習活動遂行の過程、学習目標の達成の有無などを診断したり点検するための評価方法を定める。
- (オ) 教授・学習を、効果的に一貫性を持って遂行するために教授・学習課程案を作成する。
教授・学習課程案は次の事項を含むことができる。
 - ① 教授・学習の対象と時期
 - ② 教授・学習の目標
 - ③ 教授・学習内容： 言語技能、コミュニケーション活動、言語形式、素材(必要に応じて文化も含む)
 - ④ 教授・学習資料： 教科用途で、水準別教授・学習資料、視聴覚資料など
 - ⑤ 教授・学習活動および手続き： 教授・学習目標と学習内容に適合した具体的学習手続きおよび学習活動、活動別時間配分
 - ⑥ 評価方法および指導上の留意点

(3) 教授・学習計画上の留意点

- (ア) 教授・学習に使われる言語と課題においては、真正性ある言語と有意味な課題が選ばれるようにする。
- (イ) 学習動機を誘発する方法、多様な活動型(個人、パートナー、グループ、全体)、生徒中心の授業活動、授業内容の確認活動などが含まれるようにする。
- (ウ) コミュニケーション能力の伸張、創意性の啓発および人格教育が共に成り立てるように留意する。
- (エ) 機資材を授業に活用しようと思う時には学習の効率性が最大化されるように計画する。

イ. 教授・学習方法

(1) 教授・学習方法選定の方向

- (ア) 学習目標と内容に適切な教授・学習方法を選定する。
- (イ) 生徒たちの実際の言語使用能力を培養できる教授・学習方法を考慮する。
- (ウ) 生徒の英語使用能力、認知的・情緒的特性、学習類型および戦略などを考慮して多様な生徒中心の教授・学習方法を選定する。
- (エ) 単一の言語技能に対する教授・学習方法だけでなくおよび二つ以上の言語技能を連携する教授・学習方法を選定することによって、実際の統合的な英語使用能力を伸ばすようにする。
- (オ) 生徒間で活発な相互作用を誘導できるようグループ別協同・協力学習を適切に活用する。
- (カ) 生徒たちが協力して課題を解決する経験を豊富に持つように誘導し、他人に対する配慮と分かち合いの実践など、人格教育を強化できる方法も考慮して選定する。
- (キ) 英語圏および非英語圏の多様な文化を理解できる教授・学習活動を準備する。
- (ク) 教授・学習内容などの性格により、教授・学習方法の選定過程に生徒たちを参加させて創意的な活動を導き出し、学習興味と学習動機の誘発を企てる。

(2) 教授・学習方法

- (ア) 聞くこと
 - ① 英語の多様なリズム、強勢、抑揚などを認識するように指導する。
 - ② 音素、単語、語句、抑揚、言語形式などを考慮して意味を把握するように指導する。
 - ③ 対話や談話が起きる状況、文脈、背景知識などを活用して意味を把握するように指導する。
 - ④ 効率的な聞くことの活動のために、聞く前の活動、聞きながらの活動、聞いた後の活動に分けて段階的に指導することができる。

(イ) 話すこと

- ① リズム、強勢、抑揚、連音など英語の特性に留意して発話できるように指導する。
- ② コミュニケーション中心の多様な言うこと活動により英語に対する興味と自信を持つように指導する。
- ③ 状況や目的に合う適切な表現を使用できる能力を育てるように指導する。
- ④ 対話の状況で、多様なコミュニケーション方略を使用できる能力を育てるように指導する。
- ⑤ 意味伝達に支障を与えない限り、教師が即座に誤りを修正することを避け、できる限り、生徒が自ら誤りを発見し修正することができるように援助する。

(ウ) 読むこと

- ① 声を出して読むこと、聞いたとおり読むこと、一斉に読むこと、繰り返して読むことなど、多様な読むことの練習活動が成り立つようにする。
- ② 文脈を通じてなじみがうすい単語の意味と文の内容などを類推することができるように指導する。
- ③ 多様な形態の読み取り資料に対して精読と多読を適切に並行して実施する。
- ④ ボトムアップ式読み取り方略とトップダウン式読み取り方略を適切に使うように指導する。
- ⑤ 状況、文脈、話題に対する背景知識を活用して文の意味を理解するように指導する。
- ⑥ 効率的読み取り活動のために読む前の活動、読みながらの活動、読んだ後の活動に分けて段階的に指導することができる。

(エ) 書くこと

- ① 学習目標と児童水準を考慮して統制作文、誘導作文、自由作文を段階別に指導していく。
- ② 意味伝達に支障を与えない限り教師が即座に誤りを修正することを避け、できる限り、生徒が自ら誤りを発見し修正することができるように援助する。
- ③ 効率的な書く活動のために、書く前の活動、書きながらの活動、書いた後の活動に分けて段階的に指導することができる。

(オ) 語彙および言語形式

- ① 語彙の個別の意味よりは、話や文の脈絡を通じて多様な意味と活用法が身につくように指導する。
- ② 語彙はできるだけ文脈の中で意を類推することができるように指導するものの、辞書などを利用して意味を探す方法も指導する。
- ③ 2個以上の単語が組合わさった連語の意味と使用法も指導する。
- ④ 多様な語彙資料を活用して語彙に対する興味を高め、語彙使用能力を伸ばすように指導する。

- ⑤ 言語形式は実際的なコミュニケーション機会を通じて自然に身につくように指導する。
- ⑥ コミュニケーションに支障を与えない言語形式の誤りに対しては、即座の修正を避け、できるだけ生徒自らが誤りを発見し修正することができるように援助する。

(カ) 文化

- ① 我が国の文化を話や文で外国人に紹介できる基礎能力を備えるように指導する。
- ② 情報通信技術およびその他多様な教授・学習資料などを活用して英語圏および非英語圏文化資料を生徒自ら探索しながら多様な文化を理解するように指導する。
- ③ 言語と文化の関係を見せる多様な学習活動や学習資料を活用する。
- ④ 多様な文化に対する開放的態度および世界市民意識を育てるように指導する。

(3) 教授・学習運営上の留意点

- (ア) 生徒たちが学習目標に到達するように生徒たちの能力や水準などを考慮して多様な学習の機会と方法を提供する。
- (イ) 教師中心の活動よりは教師と生徒、生徒と生徒間の相互作用が活発に起きるようにする。
- (ウ) ゲームおよび役割遊びなどの活動中心授業では興味誘発と共に言語学習が活発に行われるようにする。
- (エ) 多様なグループ別協同・協力学習を通じて生徒たちが課題を遂行していきながら英語コミュニケーション活動に多く参加することができるようにする。
- (オ) 個別学習およびグループ学習を適切に活用して自律的な学習態度や分かち合いと配慮の共同体意識も育てられるように指導する。
- (カ) 授業はできるだけ英語で進めるものの、生徒の水準、学習内容の特性などを考慮して、英語の使用量と水準、速度などを適切に調節する。
- (キ) 教師は学習促進者の役割も遂行することによって学習者が自分の主導的英語学習能力および習慣を育成することができるようにする。
- (ク) 生徒の個人差などを考慮して、水準別授業を運営する。
- (ケ) 水準別授業担当教師は、教科協議を通じて該当学年群または、学年の単元別学習内容を分析したのち、基本学習、深化学習、補充学習要素などを抽出して指導することができる。また、生徒の興味と能力の差を考慮した水準別学習活動が効率的に成り立つように教科書を再構成することができ、教授・学習資料も水準別に作成して指導することができる。

ウ. 教授・学習資料

(1) 教授・学習資料の開発方向

- (ア) 教授・学習活動の効率的実行に必要な資料を適切に準備する。

- (イ) 生徒たちの学習動機誘発と興味維持を考慮した資料を適切に準備する。
- (ウ) 生徒たちの学習類型および戦略などを考慮した資料を適切に準備する。
- (エ) 生徒たちの英語使用能力および認知水準などを考慮した水準別資料を、適切に準備する。
- (オ) 人格教育のために健全な性格育成に役に立つ資料を適切に準備する。
- (カ) 課題中心のコミュニケーション活動と自己主導的学習を促進できる資料を適切に準備する。
- (キ) コミュニケーション能力伸張のために教授・学習段階別に適合した教授・学習資料を適切に準備する。
- (ク) 学級規模などにより効果的に使用できる資料を適切に準備する。

(2) 教授・学習資料活用方法および活用上の留意点

- (ア) 準備した資料を教授・学習状況に合わせて効果的に活用する。
- (イ) 選ばれた資料を教授・学習の必要に応じて修正および補完する。
- (ウ) 水準別学習活動のための多様な教授・学習資料を活用する。
- (エ) 学校の条件により、同僚教師と教授・学習資料を共同製作し共有して活用することができる。
- (オ) 準備した同一資料を多様な学習活動に活用して活用度を高める。
- (カ) 教授・学習資料の活用時には、学習活動の多様性と連携性を考慮して、資料に過度に依存しないようにする。

6. 評価

6-1. 小学校

ア. 評価計画

(1) 評価計画の方向

- (ア) 英語科評価の原理を反映して評価計画をたてる。
- (イ) 評価目的を達成してその効果を最大化するために事前に準備して計画する。
- (ウ) 教授・学習活動と評価を連携させて学習過程と成就基準に到達したかどうかを評価するものの、過程評価を中心として計画する。

(2) 評価計画の方法

評価計画書は次のような事項を含むことができる。

- (ア) 評価の目的
- (イ) 評価の対象と時期
- (ウ) 評価の内容(言語機能、コミュニケーション機能、主題、素材など)
- (エ) 評価方法(分離評価と統合評価の比率、選択式と記述式の比率など)
- (オ) 評価細部事項
 - ① 質問項目数
 - ② 言語形態(音声言語、文字言語)
 - ③ 配点および時間
 - ④ 評価技法(各言語機能別に具体的な評価技法)
 - ⑤ 実行に対する評価基準(採点尺度と各尺度に対する説明)
- (カ) 評価実施手続き
- (キ) 採点方法と手続き
- (ク) 評価結果報告方法と手続き

(3) 評価計画上の留意点

- (ア) 学習の過程と結果をすべて評価し、教育の目標達成の有無と程度を効果的に知ることが出来るよう計画する。
- (イ) 同じ評価に関する既存の結果分析資料などを評価計画の作成にあたり参考にする。

イ. 評価目標と内容

(1) 評価目標の設定と内容選定の方向

- (ア) 評価目標と内容は教育課程で提示した教育目標と成就基準に基づくようにする。
- (イ) コミュニケーション能力を適正に評価することができるよう、評価目標を作成して内容を選定し、内容の妥当性を高める。

(2) 評価内容選定上の留意点

- (ア) 評価内容に含まれる言語と課題は真正性あるものを選定するものの、児童の水準などを考慮して再構成することができる。
- (イ) 児童の言語知識、背景知識、コミュニケーション策略などが複合的に活発な相互作用ができる評価内容を選定する。
- (ウ) 英語学習に対する肯定的態度を持って自分の主導的な学習が成り立つことができる評価内容を選定する。

ウ. 評価方法

(1) 評価方法選定の方向

- (ア) 評価の目的と種類、児童の水準に応じて、適切な評価方法を用いる。

- (イ) 児童のコミュニケーション能力を効果的に測定することができるよう、多様な評価方法を用いる。
- (ウ) 言語およびコミュニケーション戦略などを活用できる評価方法を使う。
- (エ) 表現機能(言うこと、書き)評価は実行評価によってできるだけ直接評価方法を活用する。
- (オ) 児童の統合的な英語能力を伸張させられるようにリスニング、言うこと、読み取り、書きの個別機能に対する評価だけでなく、2つ以上の機能を統合した評価も児童の水準を考慮しつつ適切に実施する。

(2) 評価手続き

評価手続きは学校実情により次の通り実施することができる。

- (ア) 評価の実施は評価計画書に提示された方法と手続きに従う。
- (イ) 質問項目草案を作成した後には同僚教師などの検討を受けて修正して補完することができる。
- (ウ) 児童が評価の細部手続きと留意事項を明確に知ることが出来るように事前に明確に案内する。
- (エ) 修行評価の採点は事前に準備された採点基準と尺度に基づいてしなければならなくて、事前に児童が知ることが出来るように提示する。

(3) 評価方法上の留意点

- (ア) 評価によって児童たちの学習参加度と集中度を高めて、評価を教授・学習の効果を高める手段で活用する。
- (イ) 話すことおよび書くことなどの言語表現能力を評価しようと思う時には、できるだけ実行評価を実施する。
- (ウ) 多様な類型の課題と適切な難易度の質問項目を通じ、児童の活動の程度と範囲を評価する。

エ. 評価の活用

(1) 評価活用の方向

- (ア) 評価の活用は評価の目的と種類によってその活用度を変えることもありうるが、英語科教授・学習の改善に寄与する方向で活用するようにする。
- (イ) 評価をする過程では、児童が自身の達成度に対して認識し刺激を受けて学習動機が誘発されるようにする。
- (ウ) 評価結果に対して児童に知らせることによって、不十分な部分に対する補充、および深化学習が成り立つようにする。

（２）評価活用の方法

- （ア）診断評価によって児童の水準を診断した後、その結果を活用して学習内容を再構成したり適した教授・学習方法を適用する。
- （イ）形成評価によって、教授・学習方法が適切どうかを確認し、その結果を教授・学習方法改善資料として活用する。
- （ダ）常時的過程評価と総括的達成度評価を、バランスよく実施する。
- （エ）評価の結果は今後の評価計画策定に反映させ、教師の教授・学習の改善および児童の個別指導などに活用するようにする。

（３）評価活用上の留意点

- （ア）評価結果を解釈する際には、児童個人の成績の推移、試験および質問項目の分析結果、学校全体の成績および例年と比較した傾向などを含めて解釈することができる。
- （イ）評価結果を知らせる際には、児童の長所を中心にして、学習動機と意欲を高められるようにする。

オ．言語技能別評価

〈聞くこと〉

（１）聞くことの評価方法

- （ア）聞くことの評価の内容と水準は教育課程の成就基準を根拠に選定する。
- （イ）聞くこと的能力を測定できる多様な課題を通じて評価する。
- （ウ）評価目的と対象、方法により音節、単語、語句、文章、段落など適切な水準の文字言語材料を使う。
- （エ）事実理解についての質問項目を主に評価するものの、児童の水準により推論的理解についての質問項目も含ませる。
- （オ）選択肢の言語形態（音声言語、文字言語）、提示順序（聞く前または後）等は、評価目的と対象、内容により適切に選択する。

（２）聞くことの評価上の留意点

- （ア）入力言語を提示する時は一貫性のため、できるだけ録音資料を使い、教師が直接提示するときも一貫性を維持するように努力する。
- （イ）聞く力の評価のための台本は対話、話などの実際的な音声言語資料を活用するものの、児童の水準などを考慮して再構成することができる。
- （ウ）話の速度は評価目的と対象により適切に調節し、できるだけ自然な速度で評価を実施する。

(エ) 英語で選択肢を与える場合には、選択肢の長さや難しさが聞く力の測定に影響を与えないようにする。

〈話すこと〉

(1) 話すことの評価方法

- (ア) 話すことの評価の内容と水準は教育課程の成就基準を根拠に選定する。
- (イ) 話す力を発現させて測定できる多様な発話導き出しのための技法を使う。
- (ウ) 話す力の評価は随時観察評価、行動的評価を行うことができる。
- (エ) 話す力の評価は現場で採点したり録音して事後採点することができる。
- (オ) 話す力の評価のための採点尺度は一般的な話す力の評価原理による尺度を応用したり、課題に固有な尺度を別に作って使うことができる。

(2) 話す力の評価上の留意点

- (ア) 評価実施前に児童が該当の評価類型を十分に練習するように指導する。
- (イ) 課題の性格などを考慮して、児童たちの発話のための準備時間を適切に与える。
- (ウ) 発音など一部要素についての印象が異なる要素が採点に影響を与えないように留意する。
- (エ) 安らかで友好的な雰囲気を維持してできるだけ十分な時間を与えて児童が自身の力量を最大限発揮できるように助ける。

〈読むこと〉

(1) 読むことの評価の方法

- (ア) 読むことの評価の内容と水準は教育課程の成就基準を根拠に選定する。
- (イ) 読む力を測定できる多様な課題を通じて評価する。
- (ウ) 評価目的と対象、方法により、文字、単語、語句、文章、段落など適切な水準の文字言語材料を使う。
- (エ) 事実理解に関する能力を評価する質問項目を主に作成するものの、評価対象により、推論的理解についての質問項目の比重を適切に調節する。
- (オ) 読むことの評価として文法要素を直接測定することは避ける。
- (カ) 語彙に対する評価は文脈の中で単語の意味を理解する能力を中心に評価する。

(2) 読むことの評価上の留意点

- (ア) 単語、語句、文章、段落を正しく声を出して読んで意味を理解する程度を測定する。
- (イ) 教科書の学習内容と類似の水準の文を使うことを推奨する。
- (ウ) 教科書にある言語材料を使う場合、適切に変形して使うことができる。

(エ) 英語で選択肢を与える場合に選択肢の長さや難易度などが読む力の測定に影響を与えないようにする。

〈書くこと〉

(1) 書くことの評価の方法

(ア) 書く力の評価の内容と水準は教育課程の成就基準を根拠に選定する。

(イ) 書く力を発現させて測定できる多様な技法を使う。

(ウ) 書く力の評価のための採点尺度は一般的評価原理による尺度を応用したり、課題に固有な尺度を別に作って使うことができる。

(2) 書く力の評価上の留意点

(ア) 評価実施前に児童が該当評価の類型に合う練習をする機会を適切に与えるようにする。

(イ) 課題の性質上必要ならば、児童に書くための準備時間を適切に与える。

(ウ) 文法や技術的な事項など一部要素が、他の要素の採点に影響を及ぼさないように留意する。

カ. 言語技能統合評価

(1) 言語技能統合評価の方法

(ア) 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの個別言語技能の評価とともに、各言語技能を統合した評価を適切に実施する。

(イ) 言語技能の統合評価は、教授・学習課程を通じて統合的課題を遂行するようにしながら、観察評価、児童による相互評価などの多様な方法で評価することができる。

(ウ) 言語技能統合評価は教科目水準と学生水準に応じて、機能統合の程度を調節して実施する。小学校の統合評価の例は次のとおり。

① 聞いて話すこと： 聞いたとおり言うこと、質問を聞き答えること、短くて容易な内容を聞いたとおり言うこと、思い出して言うこと、聞いた内容に対して自身の意見や感想を簡単に話すこと

② 聞いて書くこと： 単語を書き取ること、部分を書き取ること、全体を書き取ること、短くて容易な内容を思い出して書くこと、聞いた内容に対して自身の意見や感想を簡単に書くこと

③ 読んで話すこと： 短くて平易な内容を読みそのまま言うこと、読んだ内容を思い出して話すこと、読んだ内容に対して自身の意見や感想を簡単に言うこと

④ 読んで書くこと： 短くて平易な内容を読みそのまま書くこと、若干変形して書くこと、読んだ内容に対して自身の意見や感想を簡単に書くこと

- ⑤ 話して書くこと： 絵や実物について、まず話して、次に短い文として書くこと、調べ学習をして短い文章を書くこと
- ⑥ 使って話すこと： 図や実物に関して、まず短い文章を書いて、これを発表の形式で簡単に言うこと、調べ学習の結果をまとめて、短い文章を書いて簡単な発表をすること。

(2) 言語技能統合評価上の留意点

- (ア) 言語技能統合評価によって、言語の各機能は関連することが児童に理解させる。
- (イ) 統合的に言語技能を使用することの重要性を児童たちが理解するように指導する。

6-2 中学校

ア. 評価計画

(1) 評価計画の方向

- (ア) 英語科評価の原理を反映して評価計画をたてる。
- (イ) 評価目的を達成しその効果を最大化するため、事前に準備して計画する。
- (ウ) 教授・学習活動と評価を連携させて、学習の過程と成就基準に到達したかどうかを評価する。

(2) 評価計画の方法

評価のために評価計画書を作成する。 評価計画書は次のような事項を含むことができる。

- (ア) 評価の目的
- (イ) 評価の対象と時期
- (ウ) 評価の内容(言語機能、コミュニケーション機能、主題、素材など)
- (エ) 評価方法(分離評価と統合評価の比率、選択型とソ答兄の比率など)
- (オ) 評価細部事項
 - ① 質問項目数
 - ② 言語形態(音声言語、文字言語)
 - ③ 配点および時間
 - ④ 評価技法 (各言語機能別に具体的な評価技法)
 - ⑤ 実行に対する評価基準 (採点尺度と各尺度に対する説明)
- (カ) 評価実施手続き
- (キ) 採点方法と手続き
- (ク) 評価結果報告方法と手続き

(3) 評価計画上の注意点

(ア) 学習の結果と過程を全部評価して教育目標が達成できたかどうかとその程度を効果的に知ることが出来るよう計画する。

(イ) 同じ評価に関する既存の結果分析資料などを評価計画の設定の際に参考にする。

イ. 評価目標と内容

(1) 評価目標の設定と内容選定の方向

(ア) 評価目標と内容は教育過程で提示した教育目標と成就基準に土台を置くようにする。

(イ) 言語能力を適正に評価することができるように評価目標を樹立して内容を選定し、内容的妥当性を高める。

(2) 評価内容選定上の留意点

(ア) 適切な課題を通じて言語的要素とコミュニケーション的要素を測定することができるように評価内容を選定する。

(イ) 評価内容に含まれる言語と課題は真正性あるのを選定するものの、生徒の水準などを考慮して再構成することができる。

(ウ) 断片的な知識よりは、生徒の言語知識、背景知識、コミュニケーション方略などが複合され活発な相互作用ができるような評価内容を選定する。

(エ) 英語学習に対する肯定的態度を持って生徒自らの主導的な学習が成り立つように、適切な評価内容を選定する。

ウ. 評価方法

(1) 評価方法選定の方向

(ア) 評価の目的と種類、生徒の水準により適切な評価方法を使う。

(イ) 言語および背景知識、コミュニケーション方略などを活用できる評価方法を使う。

(ウ) 表現技能（話すこと、書くこと）の評価は実行評価により、可能な限り直接評価方法を活用する。

(エ) 学生の統合的な英語能力を伸張させられるように、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの個別技能に対する評価だけでなく、二つ以上の技能を統合した評価も適切に実施する。

(オ) 評価質問項目の製作や、評価の実施と採点において適正な信頼度を維持するようにする。

(カ) 学生のコミュニケーション能力を効果的に測定でき、能力を十分に発揮することができるように多様な評価方法を使う。

(2) 評価方法および手続き

(ア) 評価方法

評価においては次のような方法を使うことができる。

- ① 評価は教師が直接行ったり（教師評価）、他の生徒が行ったり（生徒間評価）、生徒が自ら行うことができる(自己評価)。
- ② 評価対象に関しては、生徒を個別に評価したり、ペア単位あるいはグループ単位で評価することができる。
- ③ 英語科の評価内容においては、英語に対する理解および英語使用能力を評価することができる。
- ④ 評価のためのデータは、筆記評価や行動評価（観察、口述、面接、実演など）を通じて得る。
- ⑤ 評価質問項目の形態においては、選択式質問項目や記述式質問項目を使うことができる。その具体的な方法は次のとおり。

(a) 選択式: 真偽型、多肢選択型、連結型、配列型

(b) 記述式: 短答型、制限的論述型、論述型

- ⑥ 一つの評価資料に対して単一の採点者が評価したり、複数の採点者が評価することができる。
- ⑦ 評価は、主観的評価や客観的評価を行うことができる。
- ⑧ 観察、口述、面接などに対する採点に関しては、教室においてリアルタイムで採点したり、録音または録画をして事後に採点することができる。

(イ) 評価手続き

評価手続きにおいては、学校の実情に応じて次の通り実施することができる。

- ① 評価の実施においては評価計画書に提示された方法と手続きに従う。
- ② 質問項目の草案を作成した後は、同僚教師などの検討を受け、修正して改善する。
- ③ 生徒が評価の細部手続きと留意事項を明確に知ることができるように、事前に明確に提示する。
- ④ 修行評価の採点に関しては、事前に準備された採点基準と尺度に基づいて行わなくてはならず、事前に生徒が知ることができるように提示しなければならない。

(3) 評価方法上の留意点

- (ア) 教授・学習で使用した課題の形態や方法も活用して、学習と評価が相互に関連するようになる。
- (イ) 評価の目的と種類、学習者の水準により、多様な種類の課題と適切な難易度の質問項目を選定して評価する。
- (ウ) 断片的な知識や能力に対する測定よりも、言語知識と背景知識、コミュニケーション

方略を創意的に活用できる評価方法を使う。

(エ) 実行評価を実施する際には、評価の目標、内容、質問項目類型、採点基準などを明確にした後に実施する。

(オ) 観察、ロールプレイ、ポートフォリオ評価、試演などを実施して学習過程と結果を共に評価する。

(カ) 評価質問項目の製作、評価の実施と採点に関する事項を、評価計画書に基づいて点検表で作り、各項目をひとつずつ点検することにより高い信頼度を維持するようにする。

エ. 評価の活用

(1) 評価活用の方向

(ア) 評価の活用は、評価の目的と種類によってその活用度が違うこともあるが、英語科教授・学習の改善に寄与する方向で活用するようにする。

(イ) 評価をする過程で生徒が自身の達成度を認識し、刺激を受けて学習動機が誘発されるようにする。

(ウ) 評価結果を生徒に知らせることによって、不足した部分に対する補充および深化学習が成立するようにする。

(2) 評価活用の方法

(ア) 診断評価によって学生の水準を診断した後その結果を活用し、学習内容を再構成したりして適合した教授・学習方法を適用する。

(イ) 形成評価によって教授・学習方法が適切かどうかを確認し、その結果を教授・学習方法の改善資料として活用する。

(ウ) 常時的過程評価と総括的達成度評価をバランスが取れているように実施する。

(エ) 評価の結果は今後評価計画樹立に反映して、教師の教授?学習改善および学生の個別地図などに活用するようにする。

(3) 評価活用上の留意点

(ア) 評価結果を解釈する際には、生徒個人の成績変化、試験および質問項目の分析結果、学校全体の成績および例年と比較した傾向などを含んで解釈することができる。

(イ) 評価結果を解釈して通知する際には、生徒の長所を中心にして、学習動機と意欲を維持するようにする。

オ. 言語技能別評価

<聞くこと>

(1) 聞くことの評価の方法

- (ア) 聞くことの評価の内容と水準は教育課程の成就基準を根拠に選定する。
- (イ) 聞くことの能力を測定できる多様な資料および課題を活用する。
- (ウ) 評価の目的により、独白、対話、談話など多様な形態の入力言語を使う。
- (エ) 評価の目的と生徒の水準により、写実的理解、推論的理解、評価的理解のための質問項目の比重を適切に調節する。
- (オ) 選択肢の言語形態（音声言語、文字言語）、提示順序（聞く前あるいは聞いたあと）などは、評価目的と対象、内容により適切に選択する。

（２）聞くことの評価上の留意点

- (ア) 入力言語を提示する時は一貫性のためにできるだけ録音資料を使う。教師が直接提示する時は一貫性を維持するように努力する。
- (イ) 聞く力の評価のための台本は、対話、物語などの実際的な音声言語資料を活用するものの、生徒の水準などを考慮して再構成することができる。
- (ウ) 話の速度は評価目的と生徒の水準に合わせ適切に調節し、できるだけ自然な速度で評価を実施する。
- (エ) 英語で選択肢を与える場合には、選択肢の長さや難しさが聞く力の測定に影響を与えないようにする。

〈話すこと〉

（１）話すことの評価方法

- (ア) 話すことの評価の内容と水準は教育課程の成就基準を根拠に選定する。
- (イ) 話す力を発現させて測定できる多様な発話導き出しのための技法を使う。
- (ウ) 話す力の評価は、随時観察評価、および行動的評価を行うことができる。
- (エ) 話す力の評価は現場で即時採点したり、録音して事後採点することができる。
- (オ) 話す力の評価のための採点尺度は一般的な話す力の評価原理による尺度を応用したり、課題に固有な尺度を別に設定して使うことができる。
- (カ) 分析的採点と総括的採点を適切に使う。

（２）話すことの評価の留意点

- (ア) 評価実施前に生徒が該当の評価類型を十分に練習するように指導する。
- (イ) 課題の性格などを考慮して、生徒達の発話のための準備時間を適切に与える。
- (ウ) 発音、抑揚、強勢のような言語的要素が異なる主な評価要素が採点に影響を与えないように留意する。
- (エ) 穏やかで友好的な雰囲気を維持し、できるだけ十分な時間を与えて児童が力量を最大限発揮できるように助ける。

〈読むこと〉

(1) 読むことの評価の方法

- (ア) 読むことの評価の内容と水準は教育課程の成就基準を根拠に選定する。
- (イ) 読む力を測定できる多様な課題を通じて評価する。
- (ウ) 評価目的と対象、方法により、文字、単語、語句、文章、段落など適切な水準の文字言語材料を使う。
- (エ) 写実的理解能力を評価する質問項目を主に作成するものの、評価対象により推論的理
解質問項目の比重を適切に調節する。
- (オ) 文法要素を直接測定する読む力の評価は避ける。
- (カ) 語彙に対する評価は文脈の中で単語の意味を理解する能力を中心に評価する。

(2) 読むことの評価上の留意点

- (ア) 単語、語句、文、段落を正しく声を出して読み意味を理解する程度を測定する。
- (イ) 教科書の学習内容と類似の水準の文を使うことを推奨する。
- (ウ) 教科書にある言語材料を使う場合、適切に変形して使うことができる。
- (エ) 英語で選択肢を与える場合には、選択肢の長さや難易度などが読み取り能力測定に影
響を与えないようにする。

〈書くこと〉

(1) 書くことの評価の方法

- (ア) 書く力の評価の内容と水準は教育課程の成就基準を根拠に選定する。
- (イ) 書く力を発現させて測定できる多様な技法を使う。
- (ウ) 書く力の評価のためにポートフォリオを作成させるようにすることができる。
- (エ) 書く力の評価のための採点尺度は、一般的評価原理による尺度を応用したり、課題に
固有な尺度を別に設定して使うことができる。

(2) 書く力の評価上の留意点

- (ア) 評価実施前に生徒が該当の評価類型を十分に練習するように指導する。
- (イ) 必要な場合、児童に書きのための準備時間を適切に与える。
- (ウ) 文法や技術的な事項など一部要素が、他の重要な評価要素の採点に影響を及ぼさない
ように留意する。

カ. 言語技能統合評価

(1) 言語技能統合評価の方法

- (ア) 個別言語技能の評価とともに各言語技能を統合した評価を適切に実施する。
- (イ) 言語技能統合評価は教授・学習課程を通じて統合的課題を遂行するようにしながら、観察評価、生徒相互評価、自己評価などの多様な修行評価方式を活用することができる。
- (ウ) 言語技能統合評価は教科目水準と生徒水準にしたがって技能統合の程度を調節して実施することができる。語機能別統合評価の例は次のとおり。
- ① 聞いて話すこと： 聞いたとおり言うこと、聞いて内容を思い出して話すこと、聞いて内容を要約して話すこと、聞いて内容に対して自身の意見や感想を言うこと
 - ② 聞いて書くこと： 書き取ること、聞いて内容を思い出して書くこと、聞いて内容を要約して書くこと、聞いて内容に対して自身の意見や感想を書くこと
 - ③ 読んで話すこと： 読んだ内容をそのまま話すこと、読んだ内容を思い出して話すこと、読んだ内容を要約して話すこと、読んだ内容に対して自身の意見や感想を言うこと
 - ④ 読んで書くこと： 読んだ内容をそのまま書くこと、若干変形して書くこと、要約して書くこと、読んだ内容に対して自身の意見や感想を書くこと
 - ⑤ 話して書くこと： 与えられた主題に関し話し、これを整理して文として書くこと
 - ⑥ 使って話すこと： 与えられた主題に関し使い、これに対して発表すること

(2) 言語技能統合評価上の留意点

- (ア) 生徒の水準や学習内容および活動により個別評価と統合評価が効果的にされるように適切に区別して評価する。
- (イ) 言語技能統合評価によって、言語の4機能は相互関連することと統合的言語技能の重要性を理解するように指導する。

7. 【別表】 領域(学習範囲)

ア.【別表1】

素 材

日常生活でなじんだ一般的な話題を中心に、学生たちが関心を持って興味を感じることができる素材を選択するものの、学生たちのコミュニケーション能力、探求能力、問題解決能力および創意力を育てるのに役に立つ内容とする。

1. 個人生活に関する内容
2. 家庭生活と衣食住に関する内容
3. 学校生活と交友（校友）関係に関する内容
4. 社会生活と対人関係に関する内容
5. 趣味、娯楽、旅行、健康、運動など余暇善用に関する内容
6. 動植物または、季節、天気など自然現象に関する内容
7. 英語文化圏で使われる多様なコミュニケーション方式に関する内容
8. 多様な文化圏に属した人々の日常生活に関する内容
9. 私たちの文化と違った文化の言語的、文化的差に関する内容
10. 私たちの文化と生活様式を紹介するのに役に立つ内容
11. 公衆道徳、礼儀、協力、配慮、奉仕、責任感などに関する内容
12. 環境問題、資源とエネルギー問題、気候変化など環境保全に関する内容
13. 文学、芸術など審美的性格を育てて創造力、想像力を拡張できる内容
14. 人口問題、青少年問題、高齢化、多文化社会、情報通信倫理など変化する社会に関する内容
15. 進路問題、職業、労働など個人福祉増進に関する内容
16. 民主市民生活、人権、両性平等、グローバル エチケットなど民主意識および世界市民意識を鼓吹する内容
17. 愛国心、平和、安保および統一に関する内容
18. 政治、経済歴史、地理、数学、科学、交通、情報通信、宇宙、海洋、探険など一般教養を広げるのに役に立つ内容
19. 人文学、社会科学、自然科学、芸術分野の学問的素養を育てることができる内容

イ【別表 2】 コミュニケーション機能と例示文

1. 情報伝達することと要求すること

1.1. 確認することと叙述すること

△That's /It's /They're

△Is this your ... ?

The man over there is Mr. Kim.

The small one (with the blue buttons).

Ms. Anderson is the owner of the restaurant.

1.2. 述べることと報告すること

△My sister is a nurse/

△It's on the right/left.

△I'm taller than

She runs as fast as

△I met ... (yesterday).

There is a store on the corner.

The train has left.

△They will

He said the shop was closed.

1.3. 修正すること

△No, it isn't.

△(Sorry.) That's/It's not right.

△(No,) this is MY bag.

(I think) you've made a mistake.

1.4. 質問すること

△Do you have ... ?

△She's a teacher, isn't she?

△Who is she?

△What do you like?

△Where do you live?

△When is your birthday?

△How much is it?

△Whose notebook is this/that?

Which movie do you want to see?

1.5. 質問に答えること

△Yes, I do. /No, I don't.

△Yes, she is. /No, she isn't. She's a

△She's my friend.

△I like ice cream.

△In Busan.

△August 15th.

△It's two dollars.

△It's Nancy's.

I want to see

(Because)

2. 事実に対する態度表現すること

2.1. 同意すること

△Me, too.

△Same here.

△Okay! /Good! /Fine! /Great!

(Yes,) I agree.

That's a good idea.

2.2. 異議、提議すること

△I don't think/believe so.

I don't agree/disagree (with you).

I'm against

2.3. 同意や異議の有無を尋ねること

△What do you think?

Don't you agree?

Would/Do you agree with me?

2.4. 否認すること

△(No,) I didn't.

△That isn't true.

△That's not right/correct.

3. 知識、記憶、信頼を表現すること

3.1. 知っているとして表現すること

△I know (about)

I heard/have heard (about)

I've been told (about)

I'm aware (of)

3.2. 知っているのか尋ねること

△Do you know (about) ... ?

Have you heard (about) ... ?

You know ... (, don't you)?

Are you aware (of) ... ?

3.3. 気がかりなことを表現すること

I'm curious about

I wonder

I'd be (very) interested to know

Can someone tell me about... ?

3.4. 知らないとして表現すること

△I don't know.

△I have no idea.

I haven't got a clue.

3.5. 記憶や忘却を表現すること

I (don't/can't) remember

I (nearly/completely) forgot (about that).

I'll never forget

3.6. 記憶や忘却の有無を尋ねること

(Do/Don't you) remember ... ?

I wonder if you remember

You haven't forgotten about ..., have you?

3.7. 想起させてもらうこと

Remember to

Remind me to

Don't forget to

3.8. 確実性の程度を表現すること

△I'm sure.

Are you sure/certain about ... ?

I have no doubt.

I'm (not) (quite/fairly/absolutely) sure /certain

How sure are you that ... ?

4. 様相を表現すること

4.1. 可能性程度尋ねること

May/Can John ... ?

Is Mary likely to ... ?

Is it probable /likely /possible

/impossible that ... ?

4.2. 可能性の程度を表現すること

... may/can be changed.

Perhaps /Possibly /Maybe they will

They should/ought to

It is probable/ likely/ possible/
impossible that

4.3. 義務の有無を尋ねること

Must I ... ?

Do I (really) have/need to (...) ?

Is it necessary to ... ?

4.4. 義務を表現すること

You have to /must

You should /ought to

It is required to

You're expected to

4.5. 義務を否認すること

I don't have to

I don't need to

There's no reason why I should ...

4.6. 許可の有無を尋ねること

?May/Can I ... ?

Is it all right/okay if ... ?

Do you mind if ... ?

I wonder if I could ...

4.7. 許可すること

△(Yes,) you may/can ...

△Of course.

△Sure. /Okay. /All right.

I don't mind (at all).

4.8. 許さないこと

△No, you can't.

You must not/may not

(I'm afraid) it's/that's not possible.

You're not allowed/supposed to

4.9. 能力の有無を尋ねること

△Can you ... ?

Do you know how to ... ?

Are you good at ... ?

4.10. 能力を表現すること

△(Sure /Yes,) I can

I was able to

I know how to

I'm (pretty) good at

4.11. 能力を否認すること

△I can't

I don't know how to

I'm not good at

5. 意志を表現すること

5.1. 希望、願い、要望を表現すること

△I want (to)

△I'd like

I look/am looking forward to

I wish I could

5.2. 希望、願い、要望について尋ねること

△Do you want (to) ... ?

△Would you like ... ?

Do you wish (you could) ... ?

Are you looking forward to ... ?

5.3. 意図を表現すること

I'll

I'm going to

I'm thinking of

I'm planning to

5.4. 意図を尋ねること

Will you ... ?

Are you going to ... ?

Are you thinking of ... ?

Are you planning to ... ?

6. 感情を表現すること

6.1. 喜びを表現すること

△That's great!

△I'm/I feel (very/so) happy /glad.

I'm (very) glad/delighted to

6.2. 悲しみを表現すること

△How sad.

△I'm/I feel (very/so) sad/unhappy.

That makes me (really) sad.

6.3. 喜びや悲しみに対して尋ねること

△Are you happy/sad?

△Are you all right?

How are you feeling?

6.4. 悲しみ、不満足、失望の原因に対して尋ねること

△What's wrong?

What's the matter?

Why are you sad/disappointed?

6.5. 落胆を慰めること

△Don't worry.

△(Come on!) Cheer up!

Things will be better (soon).

Don't be disappointed/discouraged.

6.6. 残念や同情を表現すること

△That's too bad.

I'm (so/very) sorry to hear... .

That's a pity/shame.

6.7. 希望、期待を表現すること

I hope

I'm looking forward to

I can't wait for

6.8. 失望を表現すること

I'm/I feel (very) disappointed.

That's very disappointing.

What a pity/shame!

6.9. 心配、恐れを表現すること

I'm worried (about ...).

I'm (rather) worried/anxious

(about ...).

I'm scared/frightened/terrified

(to ...).

6.10. 心配、恐れを尋ねること

Are you afraid/scared/frightened of ... ?

Are you worried/concerned/anxious about ... ?

6.11. 安心させること

Don't be frightened.

(I'm sure) everything will be okay/all right.

6.12. 安堵感を表現すること

That's a relief.

What a relief!

Thank goodness.

I'm relieved/glad to hear... .

6.13. 好きなことを表現すること

△I like/love (to)

I enjoy ... (very much).

... is (very) good/nice/pleasant.

6.14. 嫌いなことを表現すること

△I don't like (to)

I hate (to)

6.15.好きなことまたは嫌いなこと

Do you like ... ?

△What do you like?

What's your favorite ... ?

6.16. 選好を表現すること

I prefer X to Y.

I('d) prefer (to) ... (if possible).

I think X is better than/preferable to Y.

6.17. 選好に対して尋ねること

Which do you prefer?

Do you prefer X to/or Y?

Do you like X better/more than Y?

6.18. 満足を表現すること

△Good!/Fine!/Excellent!

I'm (very) satisfied.

That'll do.

6.19. 不満足を表現すること

I'm not satisfied/happy (with ...).

That won't do.

This won't work.

6.20. 満足や不満足に対して尋ねること

Are you satisfied/happy (with...)?

How do you like/find ... ?

Is this what you want(ed)/need/
meant/had in mind?

6.21. 不平を言うこと

It's not fair.

I'm not happy about

I want to complain about

You can't possibly

6.22. 怒りを表現すること

△I'm/I feel angry.

I'm (rather/quite/very) upset/
annoyed (about ...).

I can't stand

... is (very) annoying/irritating.

6.23. 怒りに応対すること

Calm down!

Don't get so angry/worked up!

There's nothing to get angry
about.

6.24. 関心を表現すること

I'm interested in

... interests me (a lot/greatly).

I'm fascinated by

How interesting!

6.25. 無関心を表現すること

I'm not (very) interested in

I don't have any/much interest in

How boring!

6.26. 関心に対して尋ねること

Are you interested in... ?

What are you interested in?

Do you find X interesting?

6.27. 驚きを表現すること

△What a surprise!

That's /It's surprising!

I (just) can't believe this.

I'm surprised that

6.28. 驚きの有無を表現すること

Were you surprised?

Does that surprise you?

Are you surprised that ... ?

7. 道徳的態度を表現すること

7.1. 道徳的義務を表現すること

You should/ought to

It's right/wrong to

You must

You have to/have got to

You're supposed to

7.2. 承認すること

△(Very) good.

△That's fine /excellent.

△Well done!

You were (quite) right to

7.3. 拒否すること

△That's/It's not (very) good/nice.

You shouldn't/oughtn't to have done that.

I don't/can't approve (of ...).

You ought to be ashamed (of yourself).

7.4. 承認や拒否の有無を尋ねること

△How's this?

What do you think of ... ?

How do you find ... ?

Do you approve (of) ... ?

7.5. 非難したり非難を受け入れること

It's (all) your fault.

You're to blame.

It's (all) my fault.

It's (all) because of you.

7.6. 非難を拒否すること

It isn't/wasn't my fault.

Don't blame me.

It was a(n honest) mistake.

7.7. 謝ること

△(I'm so/very) sorry (about that).

Please forgive me.

I apologize.

7.8. 謝罪を受け入れること

△Not at all.

△(That's /It's) okay.

△Forget it.

△It doesn't matter.

No problem.

Never mind.

8. 説得・勧告すること

8.1. 提案したり薦めること

△Let's ...

△What/How about ... ?

Why don't we/you ... ?

Can you make it (at ten)?

You'd better ...

(I think) you should/ought to ...

Would you like (me) to... ?

I suggest (that) we ...

8.2. 助けを申し出ること

△Can I help you?

Let me help you.

Can I give you a hand?

8.3. 要請すること

△(Please,) open the door.

Can you... (、 please)?

Could I ask you to... ?

Do/Would you mind closing the window?

8.4. 助言、勧誘、要請に答えること

△Yes!/Okay!

△Sure!/All right!

△No problem.

△(That) sounds good.

△Sorry ..., but ...

△No, thank you.

Thank you, but ...

(I'm) sorry but I can't.

I'm afraid I can't ...

8.5. 忠告すること

(I think) you should/ought to ...

Why don't you ... ?

You'd better ...

If I were you, I'd ...

8.6. 忠告を求めること

Do you think I should ... ?

Can I get your advice on ... ?

What would you do if ... ?

8.7. 警告すること

△Don't ...

△Be careful.

△Watch/Look out (for ...)!

Make sure you don't ...

8.8. 許諾を求めること

△May/Can I ... (、 please)?

Let me ...

Do you mind if ... ?

Would it be possible ... ?

I was wondering if I could ... ?

8.9. 許諾要請に答えること

△Yes. /Okay. /All right.

△Sure. /Of course.

△(Yes,) you can.

△(No,) you can't.

Not at all.

(I'm afraid) that's/it's not possible.

8.10. 禁止すること

△Don't

You mustn't /can't /shouldn't

You'd better not...

9. 社交活動をすること

9.1. 注意を引くこと

△Hey!

△(Oh,) look/listen.

May I have your attention(、
please)?

9.2. 会ったとき挨拶すること

△Hi!/Hello!

△Good morning/afternoon/evening.

Good/Nice to see you (again)!

How do you do?

How do YOU do?

9.3. 安否を尋ねること

△How are you (today)?

△How's it going?

How are you doing?

What's up?

How have you/things been?

9.4. 安否を尋ねるのに応えること

△(I'm) okay (、 thanks/thank you).

△(I'm) fine/very well (、 thanks/thank
you).

△Not (too/so) bad (、 thanks/thank you).

9.5. 第三者に安否を依頼すること

Say hello to... (for me).

Please give my regards to... .

Remember me to... .

9.6. 呼ぶこと

△Mr./Miss/Mrs./Ms. ...

Doctor /Professor /Director Brown.

How /What do you want me to call you?

9.7. 自分の紹介すること

△I'm

△My name is

Let me introduce myself (to you).

I'm

9.8. 他人を紹介すること

△X, this is Y.

I'd like you to meet

I'd like to introduce

9.9. 紹介に応えること

△(It's) nice/good to meet you.

(I'm) (very) pleased to meet you.

It's a pleasure to meet/meeting you.

I've been looking forward to meeting
you.

9.10. 紹介が必要なのか尋ねること

Do you know each other?

Have you already met ... ?

I think you (two) know/have met each
other, don't/haven't you?

9.11. 歓迎すること

△Welcome!

Glad you're here.

Glad you could come.

9.12. 食べ物を勧めること

△(Please) help yourself.

△Please go ahead.

Please try some

Would you like some ... ?

Do you want some more ... ?

9.13. 食べ物の勧めに答えること

△(Yes,) thanks /thank you.

△Yes, please.

△No, thanks/thank you. (I'd rather have some)

That would be very nice.

Thanks, it/everything looks delicious.

9.14. 感謝すること

△Thanks (a lot)/Thank you (very/so much).

Thanks for... .

I (really) (do) appreciate your help/ what you've done.

9.15. 感謝に応えること

△Sure.

△You're welcome.

△No problem.

△(It was) my pleasure.

Don't mention it.

9.16. 祝い、ほめること

△Congratulations (on ...)!

△(Very) good!

△Good (for you)!

△What a nice ... !

△How ... she is!

△Great! /Excellent!

(You did a) good (work/job)!

How... she is!

9.17. 励ますこと

△You can do it!

Don't give up!

That's all right. (You'll do better next time).

9.18. 祝い、称賛、激励に答えること

△Thanks/Thank you (very much).

△You, too!

I'm glad you like... .

How nice (of you)!

9.19. 祈願すること

△Happy birthday/New Year/... !

△Good luck (with your.../the...)!

△Have a good/nice... !

I'll keep my fingers crossed!

I hope/wish

9.20. 別れの挨拶をすること

△Bye(-bye).

△Goodbye.

△Take care.

△(Have a) nice day/good night.

△See you (later/again/tomorrow).

10. 談話を構成すること

10.1. 主題を紹介すること

(Now) let's talk about

I'd like to say something about

I'd like to tell you what

10.2. 意見を表現すること

△(Well,) I think/feel/believe

It seems to me

In my view/opinion,

10.3. 意見を尋ねること

What do you think (of/about ...)?

How do you feel about ... ?

What is your view/opinion?

10.4. 数え上げること

First Second Third

First ..., then ..., then

10.5. 予告すること

What do you want to do?

What do you think of/about ... ?

Did you find ... ?

10.6. 強調すること

It is important to/that

I want to stress

10.7. 定義すること

X/This means

The meaning of X/this is

10.8. 要約すること

In short,

In brief,

To sum up,

10.9. 主題を変えること

By the way,

Let's move on to

I'd like to say something else

10.10. 理解状態を現わすこと

△I see.

△I (don't) understand.

It (still) isn't clear to me what this means.

10.11. 対話に割り込むこと

△Excuse me.

Can I say something?

Can I interrupt you for a moment?

10.12. 電話をしたり受けること

△Hello?

(This is) ... (speaking/here).

May/Can I speak to ..., please?

Who's calling, please?

Could you put me through to ... , please?

Just a moment, please.

Can I leave/take a message?

(Sorry, but) can I call you back?

ウ【別表 3】

基本語彙関連指針と語彙目録

基本語彙関連指針

別ファイルで私のウェブに掲示してあります。

基本語彙目録

別ファイルで私のウェブに掲示してあります。

エ【別表 4】

コミュニケーションに必要な言語形式

別ファイルで私のウェブに掲示しました。